

平成21年

人口動態統計（確定数）大分県の概況

目次

	頁
結果の概要	
概況について	1
人口動態総覧	2
1 出生	3
2 合計特殊出生率	3
3 死亡	4
4 乳児死亡	6
5 新生児死亡	6
6 自然増加	7
7 死産	8
8 周産期死亡	9
9 婚姻	10
10 離婚	11
用語等の説明	12

大分県福祉保健部

担当：福祉保健企画課 地域保健・情報班
(県庁内線2627、2628)

平成22年9月15日
福祉保健部

平成21年人口動態統計（確定数）大分県の概況について

平成21年の人口動態統計については、平成22年6月2日に厚生労働省から概数の概況が発表され、平成22年6月9日に大分県分について公表をしている。

このたび、平成22年9月2日に全国分の確定数の概況が公表されたため、大分県分について取りまとめた。

確定数では、出生、乳児死亡、新生児死亡、死産、周産期死亡、婚姻の6項目の大分県の全国順位が変動している。これは、全国順位については、概数公表時には端数処理され同順位となっていたものが、確定数の公表では端数処理せず順位付けたこと等によるものである。

※ 人口動態統計とは…戸籍法等による、出生、死亡、死産、婚姻及び離婚の5つの届出を基に市町村長が作成する人口動態調査票を取りまとめ、集計したもの。

人口動態総覧

		大 分 県			全 国			
		20年	21年	対前年	20年	21年	対前年	
1 出 生	実 数	10,306人	9,961人	△345人	1,091,156人	1,070,035人	△21,121人	
	率	8.6	8.4	△ 0.2	8.7	8.5	△ 0.2	
	順 位	19位	24位	5位↓				
2 合計特殊出生率	率	1.53	1.50	△ 0.03	1.37	1.37	0.00	
	順 位	7位	7位	-				
3 死 亡	実 数	12,641人	12,528人	△113人	1,142,407人	1,141,865人	△542人	
	率	10.6	10.6	0.0	9.1	9.1	0.0	
	順 位	31位	29位	2位↑				
4 乳児死亡	実 数	26人	27人	1人	2,798人	2,556人	△242人	
	率	2.5	2.7	0.2	2.6	2.4	△ 0.2	
	順 位	25位	38位	13位↓				
5 新生児死亡	実 数	16人	15人	△1人	1,331人	1,254人	△77人	
	率	1.6	1.5	△ 0.1	1.2	1.2	0.0	
	順 位	39位	39位	-				
6 自 然 増 加	実 数	△2,335人	△2,567人	△232人	△51,251人	△71,830人	△20,579人	
	率	△ 2.0	△ 2.2	△ 0.2	△ 0.4	△ 0.6	△ 0.2	
	順 位	27位	27位	-				
7 死 産	実 数	306胎	282胎	△24胎	28,177胎	27,005胎	△1,172胎	
	率	28.8	27.5	△ 1.3	25.2	24.6	△ 0.6	
	順 位	39位	35位	4位↑				
	自然死産	実 数	127胎	112胎	△15胎	12,625胎	12,214胎	△411胎
		率	12.0	10.9	△ 1.1	11.3	11.1	△ 0.2
		順 位	34位	22位	12位↑			
	人工死産	実 数	179胎	170胎	△9胎	15,552胎	14,791胎	△761胎
		率	16.9	16.6	△ 0.3	13.9	13.5	△ 0.4
	順 位	37位	38位	1位↓				
8 周 産 期 死 亡	実 数	52	46	△ 6	4,720	4,519	△ 201	
	率	5.0	4.6	△ 0.4	4.3	4.2	△ 0.1	
	順 位	39位	33位	6位↑				
	妊娠満22週以後の死産	実 数	38胎	34胎	△4胎	3,751胎	3,645胎	△106胎
		率	3.7	3.4	△ 0.3	3.4	3.4	△ 0.0
		順 位	36位	30位	6位↑			
	早期新生児死亡	実 数	14人	12人	△2人	969人	874人	△95人
		率	1.4	1.2	△ 0.2	0.9	0.8	△ 0.1
	順 位	44位	40位	4位↑				
9 婚 姻	実 数	6,197組	6,136組	△61組	726,106組	707,734組	△18,372組	
	率	5.2	5.2	0.0	5.8	5.6	△ 0.2	
	順 位	26位	21位	5位↑				
10 離 婚	実 数	2,318組	2,378組	60組	251,136組	253,353組	2,217組	
	率	1.94	2.00	0.06	1.99	2.01	0.02	
	順 位	28位	34位	6位↓				
平均発生間隔 (平成21)	出生…5 2分4 6秒に1人			出生…2 9秒に1人				
	死亡…4 1分5 7秒に1人			死亡…2 8秒に1人				
	婚姻…1 時間2 5分4 0秒に1組			婚姻…4 5秒に1組				
	離婚…3 時間4 1分2 秒に1組			離婚…2 分4 秒に1組				

注1) 出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率は人口千対。乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対。死産率は出産（出生＋死産）千対。周産期死亡率及び妊娠満22週以後の死産率は出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千対。

注2) 全国順位について、出生・合計特殊出生率・自然増加・婚姻は高率順、他は低率順としている。

< 統計の概要 >

1 出生

(1) 出生数は9,961人で、前年より345人減少し、平成17年以来4年ぶりに1万人を割り込んだ。

出生率(人口千対)は8.4で前年より0.2減少した。

(2) 出生数を母の年齢(5歳階級)別に見ると、30歳代後半で119人増加し、10歳代後半で12人、20歳代で248人、30歳代前半で179人、40歳代で25人の減少となっている。

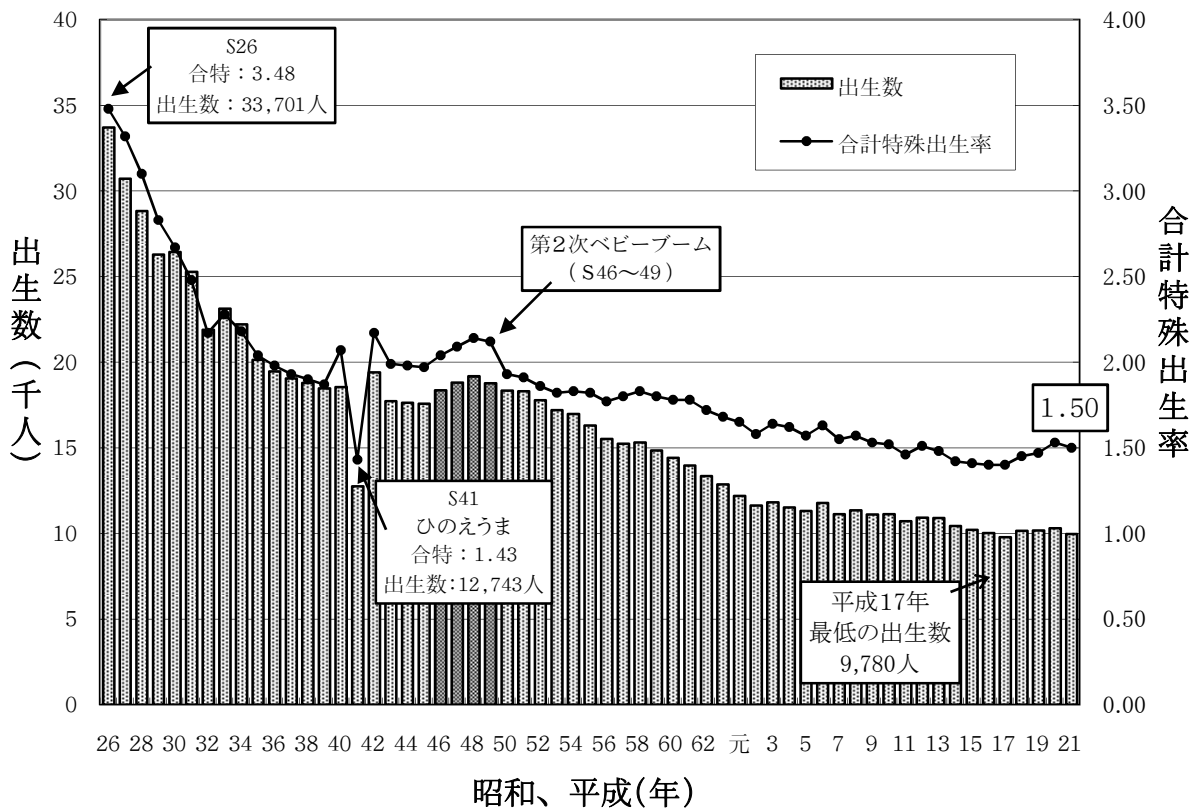
年齢階級(歳)	出生数 21年	出生数 20年	増減
～14	0	0	0
15～19	149	161	△12
20～24	1,261	1,380	△119
25～29	3,109	3,238	△129
30～34	3,516	3,695	△179
35～39	1,690	1,571	119
40～44	232	251	△19
45～49	4	10	△6
合計	9,961	10,306	△345

2 合計特殊出生率

合計特殊出生率は、1.50で前年の1.53を0.03下回ったが、2年連続で1.5台を維持した。

なお、全国の合計特殊出生率は1.37で、前年と同様だった。

図1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移

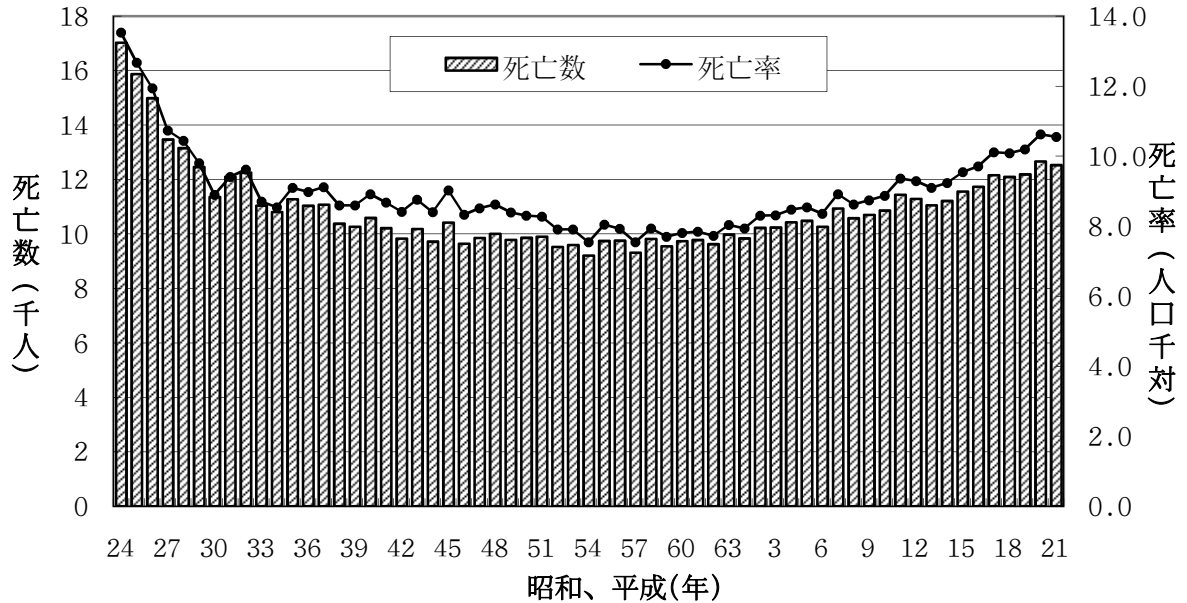


3 死亡

(1) 死亡数は、12,528人で前年より113人減少した。

死亡率(人口千対)は、10.6で前年と同様であった。年次推移を見ると、昭和50年代後半以降、上昇傾向にある。

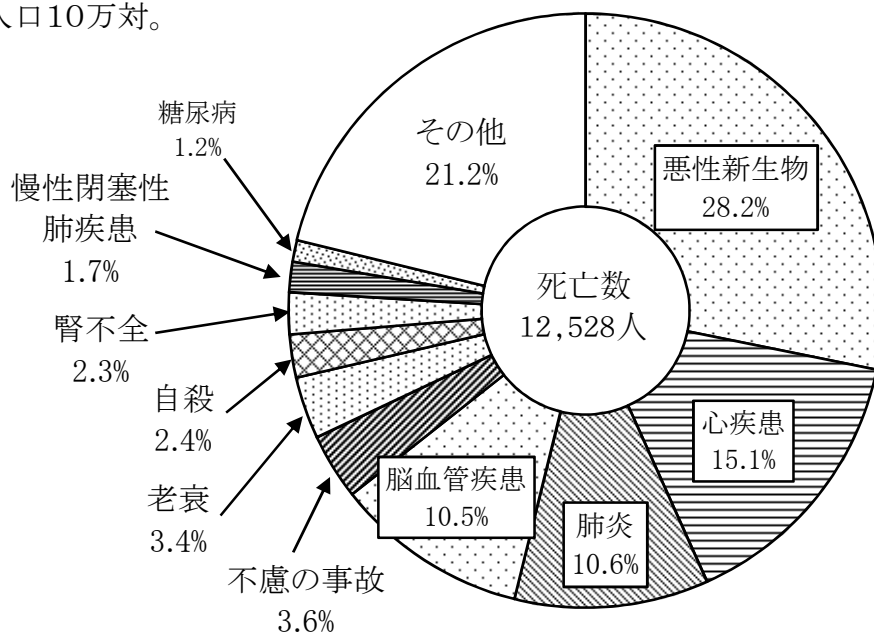
図2 死亡数、死亡率の年次推移



(2) 死因順位についてみると、第1位は悪性新生物(28.2%)、第2位は心疾患(15.1%)、第3位は肺炎(10.6%)で、この3大死因が、死亡数の過半数(53.9%)を占めている。

注)死亡率は人口10万対。

図3 死因別死亡割合



また、死因別死亡数を前年と比較すると、減少したのは、心疾患（106人）、脳血管疾患（74人）などであり、増加したのは、肺炎（46人）、老衰（37人）、自殺（16人）などである。

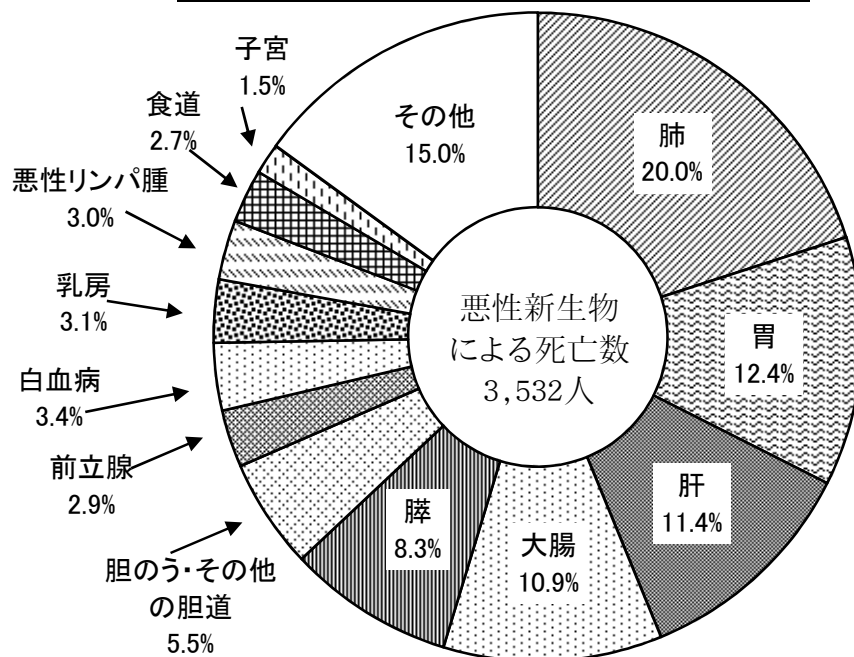
表1 主な死因別死亡数・死亡率

死 因	平成 21 年				平成 20 年			対前年比	
	順位	死亡数	死亡率	割合	順位	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
全 死 因		12,528	1055.4	100.0		12,641	1060.5	△ 113	△ 5.1
悪性新生物	1	3,532	297.6	28.2	1	3,530	296.1	2	1.5
心 疾 患	2	1,892	159.4	15.1	2	1,998	167.6	△ 106	△ 8.2
肺 炎	3	1,323	111.5	10.6	4	1,277	107.1	46	4.4
脳血管疾患	4	1,320	111.2	10.5	3	1,394	116.9	△ 74	△ 5.7
不慮の事故	5	451	38.0	3.6	5	449	37.7	2	0.3
老 衰	6	423	35.6	3.4	6	386	32.4	37	3.2
自 殺	7	295	24.9	2.4	7	279	23.4	16	1.5
腎 不 全	8	284	23.9	2.3	8	258	21.6	26	2.3
慢性閉塞性肺疾患	9	207	17.4	1.7	9	227	19.0	△ 20	△ 1.6
糖 尿 病	10	146	12.3	1.2	11	181	15.2	△ 35	△ 2.9

注) 死亡率は人口10万対。

なお、悪性新生物の部位別の死亡順位を見ると、肺がん（20.0%）を筆頭に、胃がん（12.4%）、肝がん（11.4%）、大腸がん（10.9%）と続き、この4つで悪性新生物の54.7%を占める。

図4 悪性新生物部位別死亡者数



4 乳児死亡

生後1年未満の死亡である乳児死亡数は、27人で前年より1人増加した。

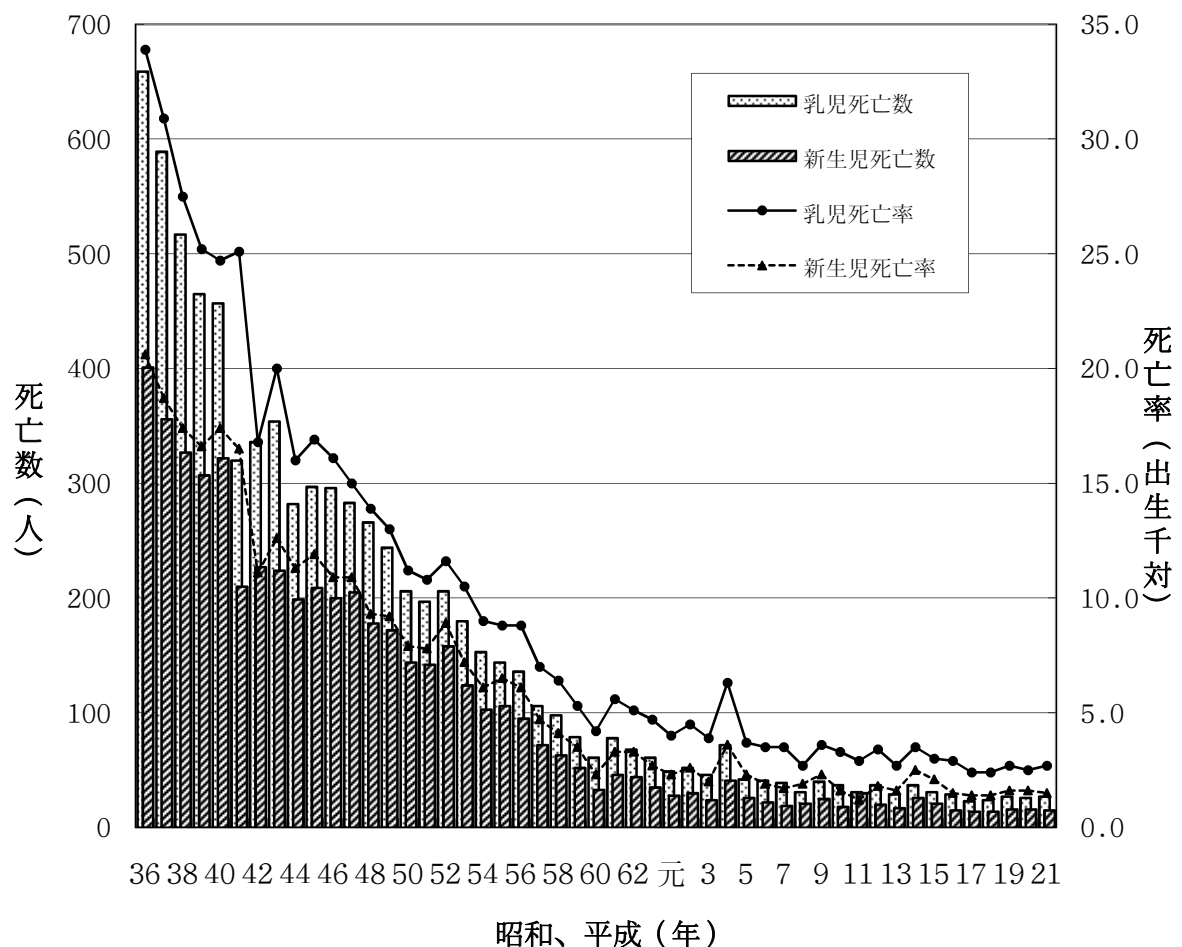
乳児死亡率（出生千対）は、2.7で前年の2.5より増加した。その年次推移をみると、昭和60年までは急激に低下し、その後は、増減を繰り返しながら、平成5年以降ほぼ横ばいに推移している。

5 新生児死亡

生後4週未満の死亡である新生児死亡数は、15人で前年より1人減少した。

新生児死亡率（出生千対）は、1.5で前年の1.6より減少した。その年次推移をみると、乳児死亡と同様の傾向で推移している。

図5 乳児（新生児）死亡数・率の年次推移

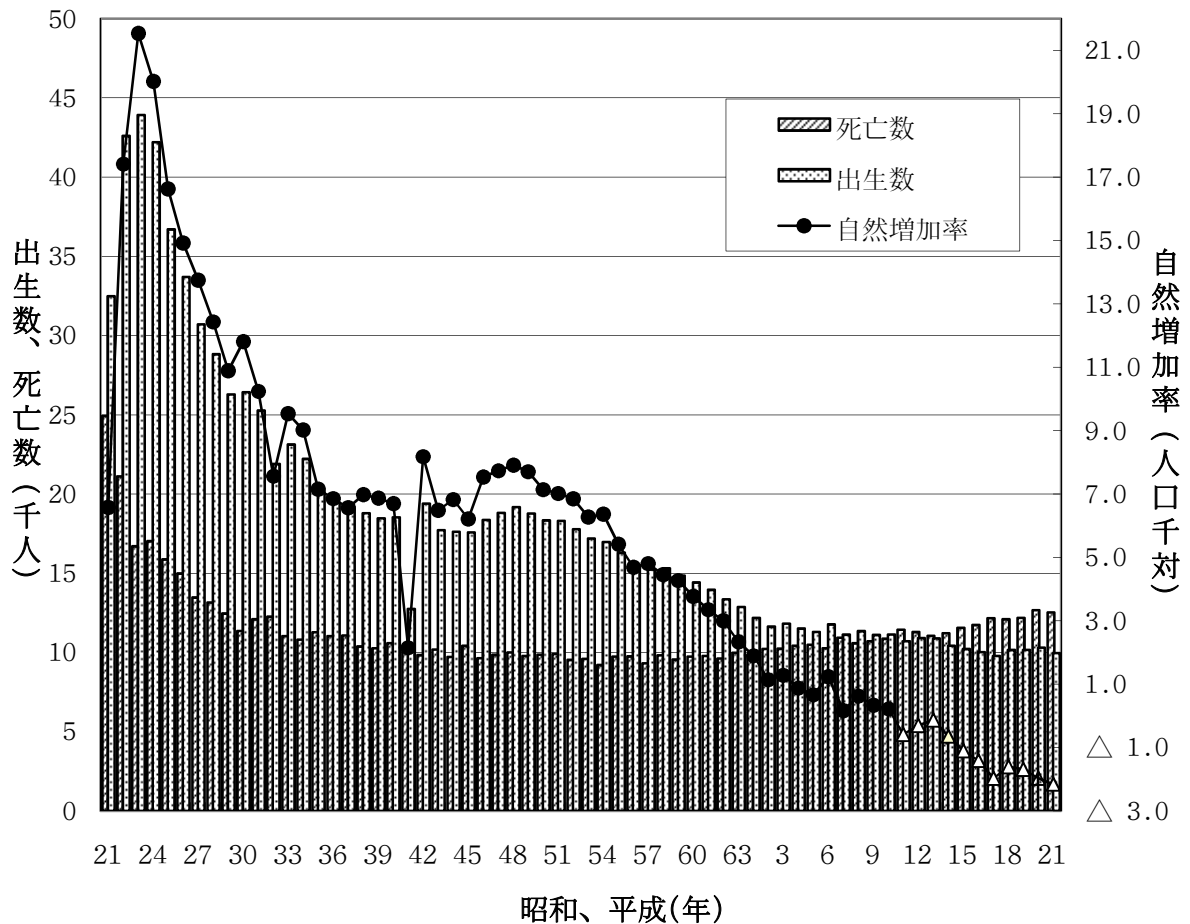


6 自然増加

自然増加数（出生数－死亡数）はマイナス2,567人で、平成11年以降、死亡数が出生数を上回る自然減の状態となっており、減少数は過去最大となった。

自然増加率はマイナス2.2と前年のマイナス2.0より減少幅が拡大し、過去最大のマイナス率となった。

図6 出生数、死亡数、自然増加率の年次推移



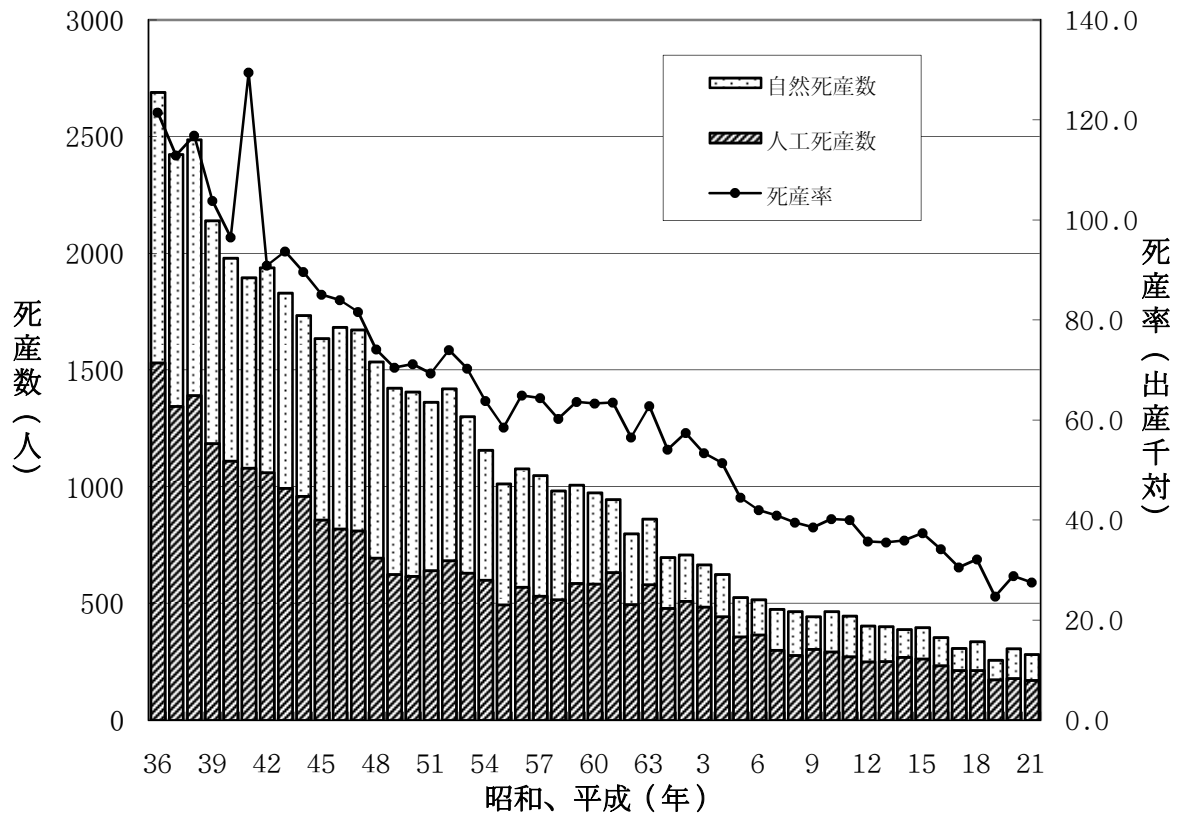
7 死産

死産数は、282胎で前年より24胎減少した。

その内訳は、自然死産112胎、人工死産が170胎となっている。

死産率（出産千対）は、27.5で前年の28.8より減少した。年次推移をみると増減を繰り返しながら、減少傾向にある。

図7 死産数（率）の年次推移



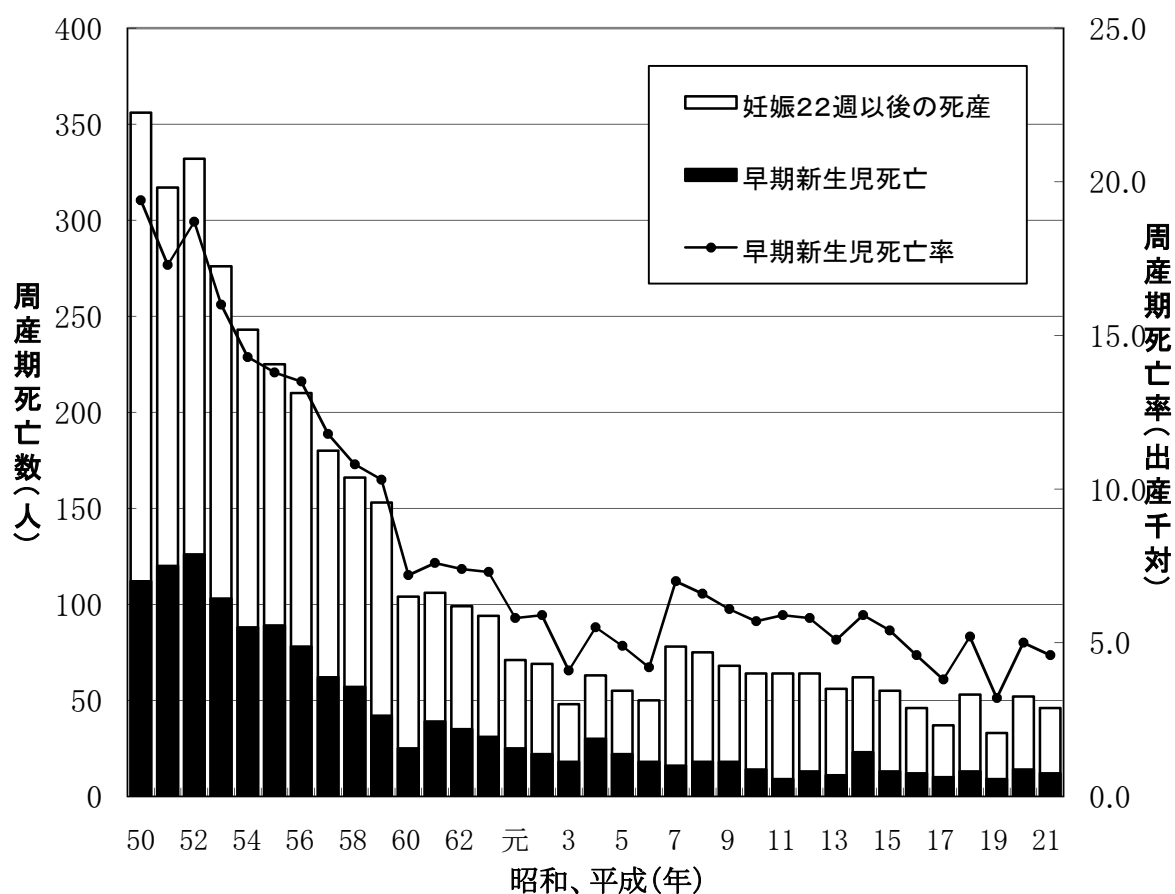
8 周産期死亡

妊娠満22週以後の死産に、生後1週未満の早期新生児死亡を加えた周産期死亡数は、46（胎・人）で前年の52（胎・人）より減少した。

その内訳は、妊娠満22週以後の死産が34胎、生後1週未満の早期新生児死亡が、12人となっている。

周産期死亡率（出産千対）は、4.6で前年の5.0より減少した。年次推移をみると増減を繰り返しながら、減少傾向にある。

図8 周産期死亡数(率)の年次推移

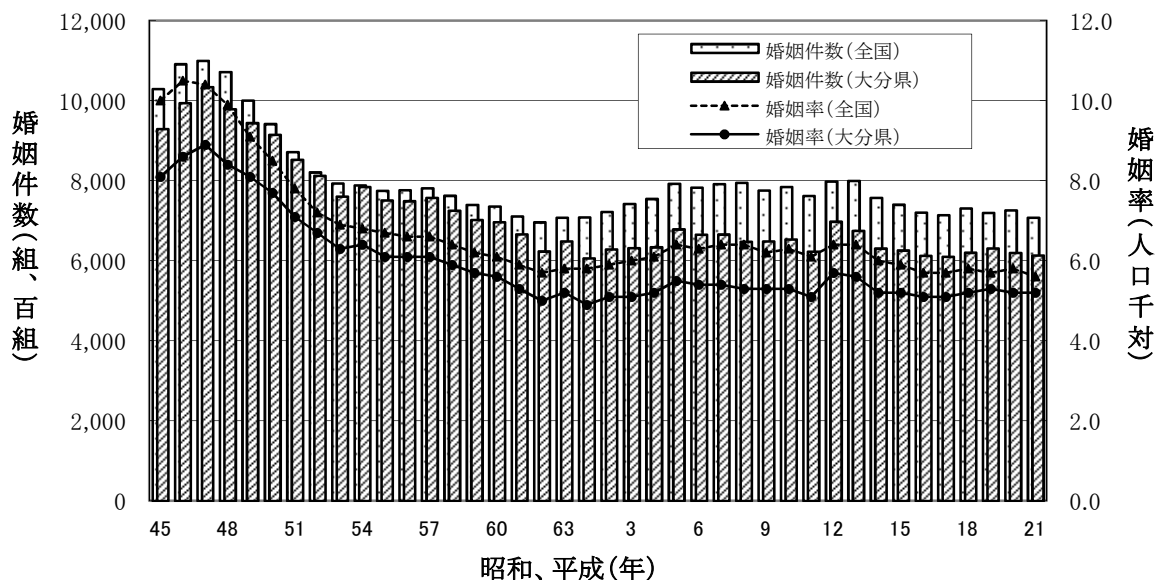


9 婚姻

婚姻件数は、6,136組で、前年より61組減少した。

婚姻率（人口千対）は、5.2で前年と同数であった。その年次推移をみると、昭和48年以降低下を続けた後、平成に入ってほぼ横ばいに推移している。

図9 婚姻件数、婚姻率の年次推移(大分県、全国)



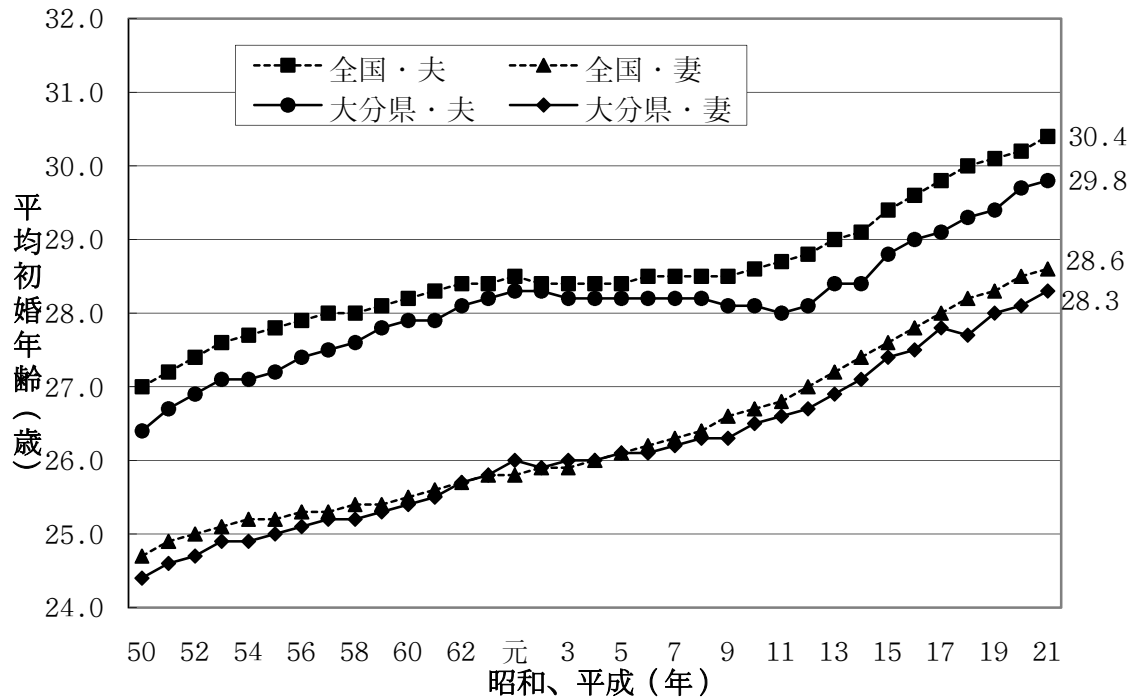
なお、平均初婚年齢は、夫29.8歳、妻28.3歳であった。

夫については、平成に入ってほぼ横ばいであったが、平成13年以降上昇傾向にある。妻については、ゆるやかであるが、ほぼ毎年上昇が続いている。

表2 平均初婚年齢の年次推移

	夫		妻	
	大分県	全国	大分県	全国
平成5	28.2	28.4	26.1	26.1
6	28.2	28.5	26.1	26.2
7	28.2	28.5	26.2	26.3
8	28.2	28.5	26.3	26.4
9	28.1	28.5	26.3	26.6
10	28.1	28.6	26.5	26.7
11	28.0	28.7	26.6	26.8
12	28.1	28.8	26.7	27.0
13	28.4	29.0	26.9	27.2
14	28.4	29.1	27.1	27.4
15	28.8	29.4	27.4	27.6
16	29.0	29.6	27.5	27.8
17	29.1	29.8	27.8	28.0
18	29.3	30.0	27.7	28.2
19	29.4	30.1	28.0	28.3
20	29.7	30.2	28.1	28.5
21	29.8	30.4	28.3	28.6

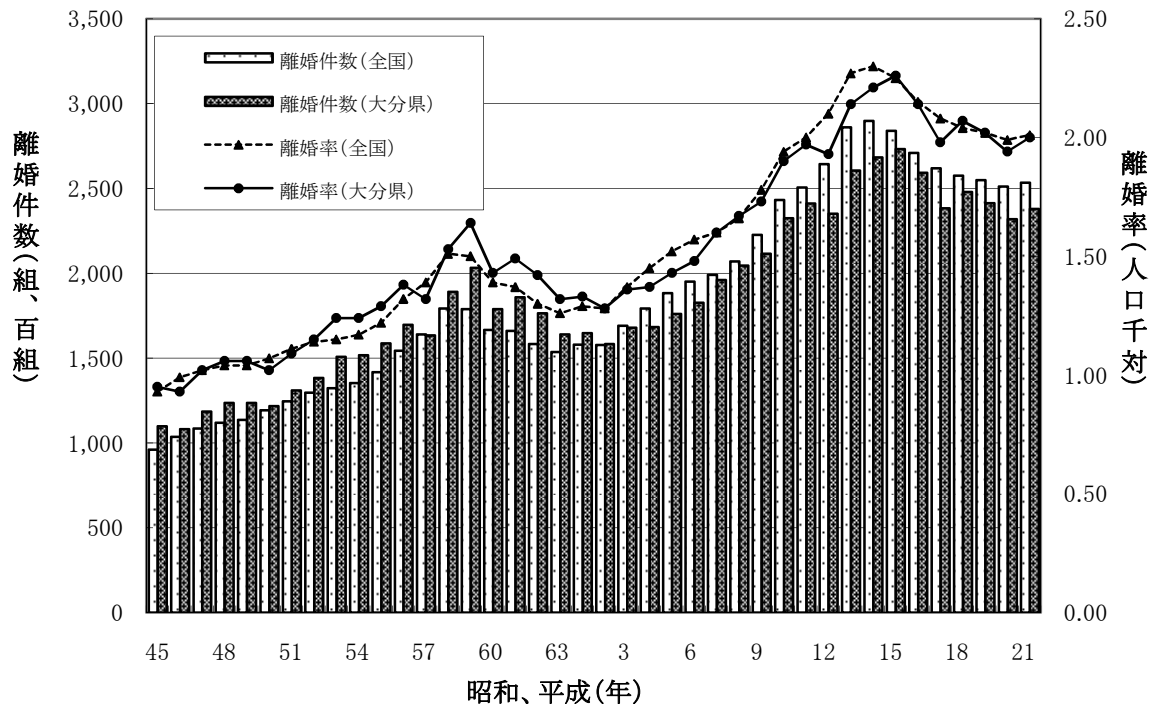
図10 平均初婚年齢の年次推移



10 離婚

離婚件数は、2,378組で前年より60組増加した。
 離婚率（人口千対）は、2.00で前年の1.94より増加した。

図11 離婚件数、離婚率の年次推移(大分県、全国)



(参考)用語等の説明

1 用語の解説

- 自然増加 出生数から死亡数を減じたもの。
- 乳児死亡 生後1年未満の死亡。
- 死産 妊娠満12週(妊娠第4月)以後の死児の出産をいい、死児とは、出産後において心臓搏動、随意筋の運動及び呼吸のいずれも認めないものをいう。
- 自然死産と人工死産 人工死産とは、胎児の母体内生存が確実であるときに、人工的死産処置(胎児又は付属物に対する措置及び陣痛促進剤の使用)を加えたことにより死産に至った場合をいい、それ以外はすべて自然死産とする。
 なお、人工的処置を加えた場合でも、次のものは自然死産とする。
 - (1) 胎児を出生させることを目的とした場合
 - (2) 母体内の胎児が生死不明か、又は死亡している場合
- 周産期死亡 妊娠満22週(154日)以後の死産に早期新生児死亡を加えたものをいう。
- 日本人人口 総人口から外国人人口を減じたものをいう。

2 比率の解説

- 出生率 = $\frac{\text{年間出生数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$
- 乳児死亡率 = $\frac{\text{年間乳児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$
- 死亡率 = $\frac{\text{年間死亡数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$
- 新生児死亡率 = $\frac{\text{年間新生児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$
- 自然増加率 = $\frac{\text{自然増加数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$
- 死産率 = $\frac{\text{年間死産数}}{\text{年間出産数(出生数+死産数)}} \times 1,000$
- 自然死産率 = $\frac{\text{年間自然死産数}}{\text{年間出産数(出生数+死産数)}} \times 1,000$
- 人工死産率 = $\frac{\text{年間人工死産数}}{\text{年間出産数(出生数+死産数)}} \times 1,000$
- 周産期死亡率 = $\frac{\text{年間周産期死亡数}}{\text{年間出産数(出生数+妊娠満22週以後の死産数)}} \times 1,000$
- 妊娠満22週以後の死産率 = $\frac{\text{年間妊娠満22週以後の死産数}}{\text{年間出産数(出生数+妊娠満22週以後の死産数)}} \times 1,000$
- 早期新生児死亡率 = $\frac{\text{年間早期新生児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$
- 婚姻率 = $\frac{\text{年間婚姻届出件数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$
- 離婚率 = $\frac{\text{年間離婚届出件数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$
- 合計特殊出生率 = $\left\{ \frac{\text{母の年齢別出生数}}{\text{年齢別女子人口}} \right\}$ 15歳から49歳までの合計
 15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生涯の間を生むとしたときの子ども数に相当する。
- 死因別死亡率 = $\frac{\text{年間死因別死亡数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 100,000$

3 死産及び乳児死亡等の関係図

